

実践④ 県立錦江湾高等学校

1 はじめに

本校は、眼前に雄大な桜島と穏やかな錦江湾を一望できる平川の地に位置し、四季折々の豊かな自然環境に恵まれた学校である。昭和 46 年に開校して以来、半世紀の歴史を刻み今年で創立 55 年となる。



現在は普通科 11 学級、理数科 6 学級の計 17 学級で、「自分で考え、自分で話す」生徒を育てるという教育方針のもと、生徒一人一人の個性を最大限に伸ばす指導を行っている。

平成 17 年には、文部科学省よりスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受け、現在は第 4 期目 4 年目として、先進的な理数教育や探究活動を展開している。科学的リテラシーのみならず、グローバルな視点で社会に貢献できる人材の育成を目指し、理数科だけでなく普通科においても探究活動に取り組んでいる。

こうした教育活動の中で、図書館は「知の拠点」として、また生徒たちの「心の拠り所」として、その役割の重要性を増している。

2 図書館と図書部

本校図書館は、「まほら館」という愛称で親しまれている。

施設面では、生徒棟と渡り廊下でつながれた別棟の 2 階に位置している。そのため、教室からの動線が長く、休み時間等に気軽に立ち寄るには物理的な距離があることが悩みであるが、その分、落ち着いて読書や学習に取り組めるという利点もある。



令和 6 年度末現在の蔵書冊数は 20,473 冊である。限られた予算ではあるが、SSH の予算も効果的に活用し、探究活動や課題研究に役立つ資料の選書を重点的に行っている。生徒一人当たりの年間平均貸出冊数は 5.6 冊と、決して多いとはいえない現状であるが、図書館の利用価値を高め、貸出冊数を増やすべく、日々模索を続けている。

図書館運営の中核を担うのが、生徒会組織の一つである「図書部」である。図書部は各クラスから 1 名ずつ選出された計 17 名で構成され、任期は 1 年間である。図書部だよりの発行、毎月の季節に合わせた館内装飾、思わず手にとりたくなる POP の作成など、多岐にわたる活動を主体的に行っている。図書館へ生徒の来館を促進するため、掲示板を活用した広報活動や、「図書部だよりの」での情報発信の工夫など、生徒目線でのアイデアを出し合いながら活動している。

3 特色ある取組

(1) 「出張まほら館」と朗読

教室から図書館が遠いという物理的な不利を克服するため、図書部では「届ける」姿勢を重視している。その象徴的な活動が、朝読書の時間に行う「出張まほら館」である。図書部員がコンテナに本を詰め込み、各学年の廊下まで運んでその場で貸出を行う移動図

書館活動である。実施時には校内放送で呼びかけを行い、朝読書の本を用意していない生徒や、普段図書館に来ない生徒に対して読書の機会を提供している。準備から片付けまで全て生徒中心に行い、その主体的な活動が朝の読書時間を支えている。また、今年度からは司書が教室に向かい行う朗読活動もはじまり、読書活動の定着に向けた取り組みを行っている。



(2) 校内ビブリオバトル大会と新書月間

校内ビブリオバトル大会は全校で行う読書活動の取組として恒例行事になっている。優勝者は全校集会で表彰されるため、生徒たちの関心も高い。

さらに、論理的思考力を養う取組として「新書月間」を実施している。新書を読むことで読解力や思考力を育成し、感想を書くことにより自分が学んだ知識を要約して表現する訓練となっている。優れた感想は「図書館だより」に掲載され、生徒間の知的



交流を促進している。

(3) SSH図書館としての探究学習支援

SSH指定校である本校において、図書館は「SSH図書館」として位置づけられ、探究活動を支える機能を担っている。探究学習に不可欠な専門書や学術書の整備を重点的に行うとともに、情報の真偽を見極めるメディアリテラシー教育、信頼できる情報源へのアクセス方法、新聞データベースの効果的な活用法などのガイダンスを行っている。生徒たちが自らの問いに対する答えを見つけ出し、科学的な根拠に基づいて論理を展開できるよう、ハード・ソフトの両面から強力な支援を行っている。

4 今後の課題

若者の活字離れに加え、別棟という物理的な距離もあり、貸出冊数が伸び悩んでいるのが現状である。この課題を解決するため、電子書籍の導入などICTを活用した環境整備や、探究学習の拠点としての機能強化を進める必要がある。SSH校にふさわしい情報の集積地としての信頼感を高めつつ、生徒が来館したくなる魅力ある空間づくりと、授業支援の両面からアプローチし、図書館のもつ「底力」を生徒・職員に示していきたい。

5 おわりに

「まほら館」の「まほら」とは、「理想郷」「すぐれた場所」「美しい場所」という意味をもつ古語である。「自分で考え、自分で話す」生徒を育てるという本校の教育目標を達成するためには、読書を通じて得られる教養と感性が不可欠である。

今後も図書部の生徒や、教職員が一丸となり、読書活動を行っていかねばならない。

本を通じて自己を見つめ世界を広げるこの図書館が、生徒たちにとって真の「まほら」となり、知の拠点として、また心のオアシスとして機能することを願って、魅力ある図書館づくりに邁進していきたい。